

# 『いのちの持ち物けんさ』(90分版)指導案

- テーマ：「国境を越えた他者理解」  
 <ねらい>  
 ○難民問題の現状について知る  
 ○「自分」という存在をじっくりと見つめ直すことで、「世界の中の自分」としての新しい可能性への気づきを得る  
 ※50分で行う場合の時間配分は【→○分】を参考

ステップ	学習活動	ねらい	留意点
導入			
イントロ (2分)	・進行役の自己紹介 ・事前注意を聞く。	・参加者との距離を縮める。 ・ワークショップで気をつける点を確認。	・以下の注意点を確実に伝える（詳細はスクリプト参照）。 -無理をしない -共有したいことのみ共有する -相手を否定しない -自分も相手も人と比べない
アイスブレイク (5分)→3分	・昨日1日をふりかえりグループ内で共有する。	・グループ内の空気を和らげ、意見の共有に慣れてもらう。 ・自分の何気ない一日でも、他の人と全く違う一日であることを実感してもらう。	グループのリーダーを中心にグループワークが進んでいるか目を配り、進んでいないところには声をかける。
持ち物けんさ			
書き出し (7分)→5分	・自分が今持っているものと自分を証明するものを3色の付箋に書き出し、色ごとに分類して貼る。	・具体的に書き出すことで、自分だけのパーソナルなリストをつくる。 例:「家族」よりも「お父さん」「猫のタマ」と書く。	・「いのち」は赤色の付箋に全員書き出してもらう。 ・ある程度書き出せているか目を配り、あまり書けていない参加者には「昨日を振り返った時、どんな物を使った?(青)」「どんな人と関わった?(赤)」「自己紹介のときになんて言うの?(黄)」など、アイスブレイクからつながるヒントを出す。 ・お互いの意見からの刺激により書き出しやすくする。
グループ内でシェア (5分)	・自分のリストについて、グループ内で共有。 ・付箋に書いた一番大切なものと思い入れのあるものを、1人1点紹介する。	・他の班員のリストの個性、自分との違いから、自分のリストの個性を意識してもらう。	
喪失の疑似体験			
青色の喪失 (7分)→4分	・青色の付箋をはがし、用紙裏面に貼り直す。 ・表面の白紙部分に、それらのものがなくなったらどう感じるかを想像して書き出す。 ・各グループでシェア。 ・司会が1グループを当てて発表。	・各色のものの喪失により、物理的な不便さ等だけでなく、精神的にどのような影響を受けるかを想像して感じてもらう。  ※ここでの想像が、次のステップで、自分の想像上の状況と難民の現状を重ね合わせる際に、どれだけ難民の痛みを理解できるかに関わってくる。	参加者がしっかりと想像して書き出しているか目を配り、「裏に貼った付箋(つまり失くしたもの)を見ながら、『これが無かったらこんな気持ちになるだろうな』などと具体的に考えてみよう」などのアドバイスをする。
黄色の喪失 (7分)→4分	・黄色の付箋をはがし、用紙の裏面に貼り直す。以下青色と同様。		

赤色の喪失 (7分)→4分	・「いのち」以外の全ての付箋をはがし、裏面に貼り直す。 ・表面の白紙部分に、それら全てがなくなり、命だけ残されたらどう感じるかを想像して書き出す。 以下青色黄色同様。		赤色はある程度深刻な雰囲気の中で考えてもらいたいので、真剣に考えるよう促す。ただし、想像するのがしんどそうな様子の参加者には無理をさせない。
全体で振り返り (3分)	・色ごとに、実際にそのような状況にある難民の写真を示し現状を紹介。		国連UNHCR協会ウェブサイト上の「ベストフォト集」等を活用。スクリプト及び次ページ解説などを参照し正しく伝える。
動画鑑賞 (7分)→5分 (調整可)	・動画 「人を守る人の手」 www.japanforunhcr.org/form/orgs/materials/post/#tabWrap	・難民問題の現状を学び、今自分たちが想像したことと重ね合わせ、難民の人々の心の痛みを感じてもらう。	「人を守る人の手」(約18分)の場合、最初の3分程度と9分50秒以降2分程度を見せる。
自分への気づき			
「自分にできることは何か」を考える (20分)→8分	・「いのち」の付箋をはがし、裏面に貼るなおす。 ・最初に作成したリストをもう一度見ながら、今の自分や自分が持っているものを振り返り、それを踏まえて社会や世界のために「自分ができるとは何か」考える。 ・今の自分にできること、将来自分にできそうなこと、皆で力を合わせてできることの3段階で書き出したのち、グループ内でシェア。 ・発表者を決める ※時間があれば、班で1枚模造紙に考えをまとめる。	自分が幸いにして持っているもの、支えられているものの存在を実感し、それをどのように社会や世界の人々に役立てられるか具体的に考えてもらう。	「今の自分にできること」 ＝日本にしながらできること、学生でもできること、自分の持ち物でできることなど  「将来自分にできそうなこと」 ＝大人になったらできそうなこと、将来就きたい職業と関連してできそうなことなど  「皆で力を合わせてできること」 ＝日本の政府や企業や団体ができることなど  上記のように具体的に考えることができるようアドバイスし、書き出せていたら褒める。  今後の具体的な行動や活動に繋がるようにアドバイスする。
各班発表 (15分)→5分	各班の代表者が班で出た意見を発表。	他の人の意見を聞くことで、考えを深める。	
まとめ (5分)→2分	講師からメッセージ		

<準備するもの>

- ・付箋(75×25mm):1人各色(青・黄・赤)10枚ほど
- ・ワークシート用A3用紙:人数分⇒持ち物リストをつくる
- ・「できること・感想」ワークシート:人数分
- ・授業用スライド・パソコン・プロジェクター・スクリーン
- ・筆記用具